

【教育学部】

【教育学部の教員養成に対する理念・構想】

開放性の教員養成制度の下では、各大学の特色を生かした個性ある教師教育が求められる。とりわけ私立大学においては、各大学の建学の精神に基づく独自色豊かな教員養成を行うことにその意義を見出すことができる。教育学部は、教育者で創価教育の創始者であった牧口常三郎先生の「人間教育」の精神に基づき、また創価大学の建学の精神に則り、教育学科と児童教育学科の2つの学科を設置して、広く教育全体に携わる人材を養成することを目的としている。

特に本学の建学の精神の一つである「人間教育の最高学府たれ」との言葉に見られるように、豊かな人間性を重んじる「人間主義教育」を基本に置いている。「人間とはどのような存在であるか」「教育とはどのような営為であるか」という根本的問いかけは、教育者を目指すものにとって重要である。そのような背景なしに教育を振りかざせば、それは危険な暴力にもなりかねない。教育学部では両学科とも、様々な教育学、心理学の理論を学びながら、哲学的、社会学的、歴史学的考察を加えつつ、人間主義に立脚した教育理論及び心理学理論を体得し、人間主義教育を実践する教員の養成を目指している。

【教育学科の教員養成に対する理念・構想】

教育学部教育学科の理念は、「多角的な視点で教育を捉え、人間教育を担う人材を輩出すること」である。「人間教育」という重要な役割を担う教員の養成を目指し、学生が幅広い科目を学修することで理論的思考と実践力を修養することを目指している。具体的には「教育学」「心理学」「国際教育」という異なる視点から多角的に教育を捉え、初等・中等・高等教育から社会教育・生涯教育に至る総合的な教育領域を研究する。このような理念の下、教育学科では以下の点に留意して、広く人類の平和と福祉に貢献する社会科教員の輩出を目指し、豊かな学問的知識と現場における指導力の両面を重視する教員養成を行っている。

1. 現場に密着した授業実践力

教育学科では、学校現場における様々な問題を知り、その分析・解決方法について理論的に学ぶと同時に、インターンシップにより早い段階から現実の学校教育の現場に触れることにより、理論と実践を連動させることを目指している。また教育方法や学習理論を知ることにより、教育活動を理論的に振り返り、分析して改善することができるようにしている。これらの学習活動により、確かな授業実践力外に着くように配慮している。

2. 深く豊かな学問研究

中学高校の教師は、成長期にある生徒の肉体的成長を支援する一方、学問の探求者という側面も持たなければならない。真に学問を愛し、自らも研究に努める教師であってこそ、生徒もその教科の面白さを体感し、自ら求めるようになるのである。教育学科では、社会科について幅広く深い知識を持つ中学校社会科教員と、現代の政治・経済や哲学・倫理について深い理解と探求心を持つ高等学校公民科教員を養成し、人間教育の発展に貢献することを目指している。

【児童教育学科の教員養成に対する理念・構想】

教育学部児童教育学科が目指すのは、幼児・児童それぞれが本来持っている力を最大限に信頼し、活か

そうとする教育であり、いかなる場面においても子どもの幸福を最大の価値とみなす教育である。そのためには、社会的目的を達成するための手段として教育を利用し、目的・手段のために教育を従属させるというあり方を排除し、子どもたちの人間性の開花を目指す教育そのものを最大の目的とする価値観に立つ必要がある。このような理念の下、児童教育学科では以下の点に留意して基礎能力と現場対応力の両方を重視する教員養成を行っている。

1. 現場に密着した子ども観の育成

「人間主義教育」といっても、理念だけでは空回りしてしまう。しかしながら、何も準備せず現場に出るだけでは実践力に結びつかない。児童教育学科では、まず学校における多くの問題について、正しくとらえ理論的に分析する力を養った上で、学校インターンシップを利用して早い段階から学校現場に触れる。このような経験を通じ、正しい視点で教育現場の現実を正しく認識し、自らの目で見、体で体験した上で子どもたちを理解することができるようになる。

2. 学問の正確な理解に根ざした授業実践力

教師の授業力が問われているが、正確な学問理解なくしてよい授業を行うことはありえない。小学校教員といえども専門性が問われる時代である。免許法の上ではいくつかの教科を学ぶだけで教員免許を取得できることになっているが、児童教育学科では、小学校の全教科にわたり、学問内容を扱う授業を履修するだけでなく、どれか一つの教科について集中して学習することにより、得意教科を作ることができるようにしている。

【高等学校公民免許課程の学年ごとの到達目標】

1年次では大学における学修の基礎となる科目に加え、人間主義教育を体現する高等学校公民科教員を目指す上で必要な基盤的知識を修得することを目標とする。具体的には、まず大学科目や言語科目を含む共通科目のほか、「教育学概論」「心理学概論」で教育学及び心理学の基本を学び、また「教職概論」で学校教育における教職員の役割について知る。さらに教科「公民」に関する科目である「生涯学習概論」「社会教育概論」により学問的基礎を学び、教員になるための基本的知識を身につけることを目指す。

2年次では実際に高等学校で教えるために必須となる学問知識や教育実践力を養うことを目標とする。具体的には、「法学」「政治学原論」「社会学概論」「倫理学概論」などにより、法令科目区分である「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学」の3つの分野の学問的基礎を身につけるとともに、「公民科教育法」により教科に関する実践的な教授法を学ぶ。また「教育心理学」「教育行財政学」等の科目により、生徒の心や学校の役割について学問や法律に基づいて理論的に知ることにより、教員になるために必要な現実に即した知識・能力を養うことを目指す。

3年次ではより深く生徒を理解し、幅広い知識を持つ優れた人間主義の教員になるための知識・能力を修得することを目標とする。具体的には、「教育方法学」「教育カウンセリング」等により、生徒に対してより効果的な指導を行う方法を学ぶ。また「比較・国際教育学」や「哲学概論」「情報教育論」等を選択することで、公民科教員としてのより幅広い知識を身につけ、適切な教育指導ができる力を養うことを目指す。

4年次ではこれまでに身につけた知識・能力を活用し、実践的演習を通じて高等学校公民科教員としての指導力を身につけるとともに、人間主義教育を体現する高等学校公民科教員を目指す意欲を新たにすることを目標とする。具体的には、高等学校における数週間にわたる「教育実習」により、現実に生徒たちに学問を教え、さまざまな生活指導を行う教員生活を体験することにより実践的な力を身につけ、最後に「教職実践演習」を通してこれまでの学修を振り返り、教職への準備を完了することを目指す。

【中学校社会科免許課程の学年ごとの到達目標】

1年次では大学における学修の基礎となる科目に加え、人間主義教育を体現する中学校社会科教員を目指す上で必要な基盤的知識を修得することを目標とする。具体的には、まず大学科目や言語科目を含む共通科目のほか、「教育学概論」「心理学概論」で教育学及び心理学の基本を学び、また「教職概論」で学校教育における教職員の役割について知る。さらに社会科に関する科目である「教育史」「生涯学習概論」等により学問的基礎を学び、教員になるための基本的知識を身につけることを目指す。

2年次では実際に中学校で教えるために必須となる学問知識や教育実践力を養うことを目標とする。具体的には、「日本史」「外国史」「地理学」「法学」「社会学概論」「倫理学概論」などにより、5つの法令科目区分の学問的基礎を身につけるとともに、「社会科教育法」により教科に関する実践的な教授法を学ぶ。また「教育心理学」「教育行財政学」等の科目により、生徒の心や学校の役割について学問や法律に基づいて理論的に知ることにより、教員になるために必要な現実に即した知識・能力を養うことを目指す。

3年次ではより深く生徒を理解し、幅広い知識を持つ優れた人間主義の教員になるための知識・能

力を修得することを目標とする。具体的には、「教育方法学」「教育カウンセリング」等により、生徒に対してより効果的な指導を行う方法を学ぶ。また「人文地理学」「地誌学」「比較・国際教育学」「哲学概論」等を選択することで、社会科教員としてのより幅広い知識を身につけ、適切な教育指導ができる力を養うことを目指す。

4年次ではこれまでに身につけた知識・能力を活用し、実践的演習を通じて中学校社会科教員としての指導力を身につけるとともに、人間主義教育を体現する中学校社会科教員を目指す意欲を新たにすることを目標とする。具体的には、中学校における数週間にわたる「教育実習」により、現実に生徒たちに学問を教え、さまざまな生活指導を行う教員生活を体験することにより実践的な力を身につけ、最後に「教職実践演習」を通してこれまでの学修を振り返り、教職への準備を完了することを目指す。

【小学校免許課程の学年ごとの到達目標】

1年次では、大学における学修の基礎となる科目に加え、人間主義教育を体現する小学校教員を目指す上で必要な基盤的知識を修得することを目標とする。具体的には、まず大学科目や言語科目を含む共通科目のほか、「初等教育原理」「心理学概論」で教育学及び心理学の基本を学び、また「教職概論」で学校教育における教職員の役割について知る。さらに「国語概論」「理科概論」等の科目により、各教科の学問的基礎を学び、教員になるための基本的知識を身につけることを目指す。

2年次では、初等教育教員が実際に小学校の現場で教えるために必須となる知識・能力を修得することを目標とする。具体的には、「社会科教育」「算数科教育」等の科目により教科に関する実践的な教授法を学び、また「教育心理学」「教育行財政学」等の科目により、子どもたちの心や学校の役割について学問や法律に基づいて理論的に知ることにより、教員になるために必要な現実に即した知識・能力を身につける。さらに「学校インターンシップ」により、早い段階で教育現場を体感することを目指す。

3年次では、より深く児童を理解し、幅広い知識を持つ優れた人間主義の小学校教員になるための知識・能力を修得することを目標とする。具体的には、「発達心理学」「教育カウンセリング」等により子どもたちの成長を知り、その心に寄り添う方法を学ぶ。また「特別支援教育」や「情報教育論」等を選択することで、教員としてのより専門的な力を身につけることを目指す。新しい時代に合わせ、「小学校の英語教育」も用意している。

4年次では、これまでに身につけた知識・能力を活用し、実践的演習を通じて小学校教員としての現場対応力を身につけるとともに、人間主義教育を体現する小学校教員を目指す意欲を新たにすることを目標とする。具体的には、小学校における数週間にわたる「教育実習」により、現実に子どもたちに学問を教え、さまざまな生活指導を行う教員生活を体験することにより実践的な力を身につけ、最後に「教職実践演習」を通してこれまでの学修を振り返り、教職への準備を完了することを目指す。

【幼稚園免許課程の学年ごとの到達目標】

1年次では、大学における学修の基礎となる科目に加え、人間主義教育を体現する幼稚園教員を目指す上で必要な基盤的知識を修得することを目標とする。具体的には、まず大学科目や言語科目を含む共通科目のほか、「初等教育原理」「心理学概論」で教育学及び心理学の基本を学び、また「教職概論」で学校教育における教職員の役割について知る。さらに国語、算数、音楽、図工、体育といった、幼稚園と小学校に共通する内容を持つ教科について、学問的基礎を学び、教員になるための基本的知識を身に

つけることを目指す。

2年次では、実際に幼稚園で教えるために必須となる知識・能力を修得することを目標とする。具体的には、「保育内容総論」や「保育内容」各領域、「幼児理解と教育相談」により幼稚園教育の各分野における指導内容を学び、さらに「教育心理学」「教育行財政学」等の科目により、子どもたちの心や学校の役割について学問や法律に基づいて理論的に知ることにより、幼稚園教員になるために必要な現実に即した知識・能力を身につけることを目指す。幼稚園の「学校インターンシップ」も用意している。

3年次では、より深く幼児を理解し、幅広い知識を持つ人間主義の優れた幼稚園教員になるための知識・能力を修得することを目標とする。具体的には、「発達心理学」「教育カウンセリング」等により子どもたちの成長を知り、その心に寄り添う方法を学ぶ。また「幼児教育総合演習」によって、幼稚園教員としての総合的な力を身につける。さらに「特別支援教育」や「教育評価」等を選択することで、教員としてのより専門的な知識を得ることを目指す。

4年次では、これまでに身につけた知識・能力を活用し、実践的演習を通じて幼稚園教員としての現場対応力を身につけるとともに、人間主義教育を体現する幼稚園教員を目指す意欲を新たにすることを目標とする。具体的には、幼稚園における数週間にわたる「教育実習」により、現実に幼児と触れ合い、さまざまな活動を通してその成長を促す教員生活を体験することにより実践的な力を身につけ、最後に「教職実践演習」を通してこれまでの学修を振り返り、教職への準備を完了することを目指す。